

第110回「さんか・さろん」 まとめ
・2021年9月21日(火)

・「つながる”雲仙”

・ 松下 隆さん(長崎県雲仙市政策企画課)

雲仙市は、長崎県の島原半島西部に位置する農業と観光の地です。2015年には雲仙市市制施行10周年を記念しスローライフ学会協力のもと「地方創生フォーラム」を開催しました。当時フォーラム担当だった松下さんです。あれからとこれからと、「つながる」をテーマに熱い思いを語っていただきました。

.....

今年8月、大雨による災害を受けたが、ここであらためて皆さまからのご厚情に感謝したい。いま「越えて より先へ 雲仙」を合言葉に復興に向けて動き出している。この一昨日の写真を見てほしい、こんなに美しく既に観光のお客様もお越しいただいている。雲仙の温泉も道路も今まで通り。今日ご参加の皆様は雲仙は大丈夫ということを広散してほしい。

【拡散希望】「越えて より先へ 雲仙」いまの雲仙

令和3年9月19日 午前11時(一部9月10日頃)

【問い合わせが多いこと】

- 通行止めはありません。
- 温泉(源泉)は大丈夫！
(ぼこぼこ湧いています！)
- 宿泊できます！
- 登山できます！
- 雲仙地獄(遊歩道)通れます！
- 温泉たまご買えます！
- 温泉ネコいっぱい！



<まずは、自己紹介>

昭和43年、兼業農家の末っ子、長男として生まれる。子どもの頃の親からの教を今も大切にしている。父からは「百姓を一生の肥やしにしろ」、母から「頭を下げろ、挨拶をしろ、金はかからん」。昭和62年 愛野町役場に入庁。初任給97,800円、忘れることができない給料。その時の愛野町の人口で割ると一人当たり22円、一個10円のチロルチョコを2個ずつ住民に配れるくらいの仕事ができるか悩んだ。

公務員としての経験は、農業土木(事業計画担当)を13年。長崎県へ出向後、市町村合併協議会へ。合併した雲仙市発足後は

総務・企画を担当。市民の皆様は表舞台で活躍していただく、その土台やきっかけづくり、黒子になるのが面白い。悩んだ時は松下幸之助の言葉「私利私欲を捨て、純粹に仕事と向き合え」「人を想う気持ちを大切にしろ」を自問自答する。上司からは「謙虚に行儀よくしなさい」と。大事にしてい

ることは「主語は“市民”であること」。

今回のスピーチは、役所の取り組みなどは公務員として発表するが、6割は個人の考えや想いと承知してほしい。

<雲仙市はこんなところ>

長崎空港から車で約2時間50分。雲仙市は平成17年10月11日に、国見町・瑞穂町・吾妻町・愛野町・千々石町・小浜町・南串山町7つの町が合併して発足。現在の人口42,000人、世帯数17,000世帯。産業構造は農業と観光。

農業はジャガイモ、ブロッコリー、イチゴなどが盛ん。長崎県のなかで雲仙市の農業産出額は18%、このなかでもイモ類は40%、野菜類は26%。長崎県のイモ類4割を雲仙市が作っている。

観光客は年々減少している。新婚旅行や修学旅行の賑わいは平成3年の雲仙普賢岳の災害により大きく落ち込んだ。その後、何とか持ち直そうと頑張ってはきたが、到底噴火前の状況には戻ることが出来ない。平成21年に40万人の観光客は平成31年

には26万人となった。観光シーズンは5月・10月・11月。1月・2月・6月・7月ならゆっくり雲仙を楽しむことができる。宿泊客の半数は福岡・東京・大阪などの首都圏から。年齢層は40歳以上が8割を占め、30歳以下は福岡・熊本・佐賀など近場からが多い。小浜温泉は美容の湯、雲仙温泉は美白の湯として有名。雲仙地区は国立公園第一号、島原半島は世界ジオパーク認定がされている。

『これだけ知っていれば雲仙マスター』
ポイント1：雲仙市の農作物産出額279億円。イモ類だけであれば42億円くらい。長崎県におけるジャガイモの総生産量は平成24年には北海道に次ぐ2位を獲得。ポイント2：温泉地であること。小浜温泉は源泉の温度は日本一熱い105度。この数字に合わせた105メートルの日本一の足湯がある。湯は1日に1,500トン湧いている。7割が使われていない。もったいないということで現在、環境政策課がカーボンニュートラル、ゼロカーボシティとして活用に動き出している。ポイント3：美味しい食材とグルメ。

ジャガイモ、ブロッコリー、イチゴ、たいらガネ（ワタリガニ）、イリコ、雲仙牛など。イタリアのスローフード協会が認定した「雲仙こぶ高菜」や「エタリ（カタクチイワシ）の塩辛」も是非味わってほしい。

1. 雲仙市って？（位置・アクセス）



意外と近い！雲仙市。

東京から雲仙市まで行くとした場合、飛行機（長崎空港からは車）を利用すると、約2時間50分で到着します。また、雲仙市には多比良港（フェリー）があり、熊本県（長洲港）まで約45分で移動することができます。

休日、のんびり過ごしに雲仙市に来てみませんか？



<スローライフ学会との出会い>

平成 25 年、政策企画課において何か新しいことをしよう、雲仙市の課題は何かと議論を行った。人口減少問題は早急に取り組まなければと翌年の予算時、「一つの部署で解決は出来ないのですべての部署で考えてほしい」と各課に投げかけた。翌年 9 月、群馬県南牧村での「スローライフ・フォーラム」へ出向き、増田寛也スローライフ学会会長に「雲仙市に来て人口問題について講演して下さい」と伝え、快諾いただいた。

だが、平成 27 年は 4 月からは地獄の 8 カ月となった。5 月・九州の 108 市の市長を迎える九州市長会を開催。7 月・石破地方創生大臣（当時）の雲仙視察と講演を実施。10 月・雲仙市発足 10 周年記念式典として、10 月～11 月に、「地方創生フォーラム『雲仙の地方創生を語り合う』」を開催。これらすべて 400 人規模のイベントで、当時 11 名の政策課スタッフと、各課の協力を得ながら、4 月～11 月までほとんど休みなしで駆け回ることとなった。

スローライフ学会との「地域創生フォーラム」は、10 月 31 日に「視察」「分科会」「夜なべ談義」を行った。分科会参加は延べ 82 名。「自然・暮らし」「逸品・じげもん」「ちびっこ・若者」「交流・連携」の 4 つのテーマで語り合った。参加者ほとんど 78 名が「夜なべ談義」にも参加し賑やかに過ごした。翌 11 月 1 日「全体会」を開催。近隣の自治体の参加もあり約 430 名が参加。前日に行った分科会の報告も併せパネルディスカッションを行い、何とか試行錯誤しながらフォーラムを成功させた。12 月号の広報誌では、トップページから 3 ページに特集で掲載し、市民へも幅広く紹介した。

平成 29 年 7 月 6 日、農業の学科を作ることテーマに中村桂子先生（当時 JT 生命誌研究館館長、スローライフ学会副会長）に雲仙市へお越しいただいた。市長と教育長と面談を行い、現在雲仙市が取り組んでいる現状、魅力ある農業を紹介。雲仙市では総合的学習の時間を活用して農業には親しんでいたが、農業科は無い。何とかそれをできないものかと市長と対談し、あいに

くの嵐の中で大塚小学校の教育実習田を視察。その後、種採り農業をされている岩崎政利（いわさきまさとし）さんとも面会。市広報誌に、特集で「農業は人を育てる！」として中村桂子先生に寄稿をいただいた。そんな風にならないうちにスローライフ学会とつながっている。

2. 雲仙市「地方創生フォーラム」②

平成 27 年 11 月 1 日 全体会「雲仙の地方創生を語り合う」

【当日の内容】

- ・基調講演
増田寛也先生「雲仙の未来像～山と海と若者と～」
- ・分科会報告
- ・パネルディスカッション

参加者：約 400 人



<2つの関係人口、6日間滞在>

令和元年度から“関係人口”創出を目的とした事業に取り組んでいる。関係人口とは、移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない。雲仙市のファン、マニアである。地域と多様に関わる人々をどんどん作りたい。今は二つのテーマに絞っている。

ひとつはデザイナー。雲仙市出身で世界的に有名な故・城谷耕生（しろたにこうせい）さんは、過疎化の進む刈水集落に「刈水庵（かりみずあん）」というカフェをつくり、自分の作品も展示した。彼を慕って色々なデザイナーが集まりつつあった。この取り組みを全国に発信して志があるデザイナーを募り“クリエイティブ”をキーワードに関係人口の創出に取り組んでいる。

二つ目は種採り農業。有機農業は聞いたことがあると思うが、自分で種を採り作物を育てる自家採取に30年間携わっている岩崎政利さんを慕って農業を志す若者、料理人が集まっている。市場では珍しい「固定種」や「在来種」の作物は味が濃く多く



の方が魅了され、関係人口を作っている。

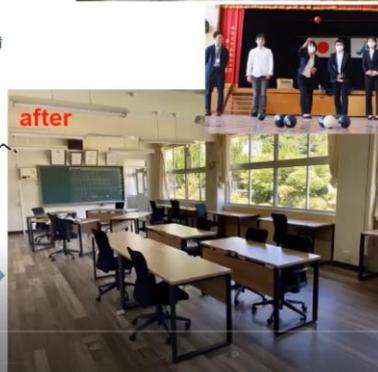
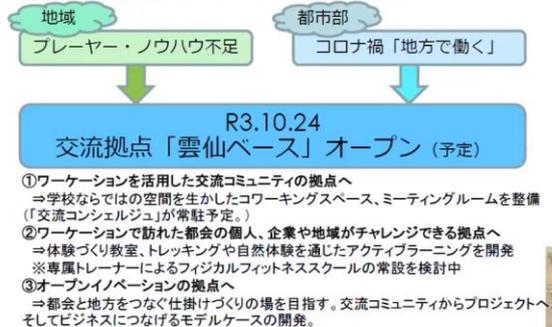
観光の取り組みでは、令和2年6月に雲仙市の観光戦略として、地域がひとつになって観光客を呼び戻そう！と取り組んでいる。「6日間滞在できる雲仙」を目指して、1：個の総力戦、2：途中も見せる、3：仲間

を集める、という3つを意識して、雲仙再生のための「12のプロジェクト」を進行中。

これまで雲仙温泉と小浜温泉にそれぞれに観光協会があったが、『仮称：雲仙観光局』として一つに。また令和2年3月に閉校した雲仙小学校を活用し、プレ

3. ワークーション

廃校舎を活用したワークーションの取り組み



一ヤーやノウハウ不足の地域の課題と、コロナ禍をきっかけに地方で働きたい都市部の課題を掛け合わせて何かできないかと。令和3年10月に交流拠点『雲仙ベース』をオープンする。ゆっくり滞在する、ワーケーションの基地となる予定だ。

<「雲仙人」プロジェクトも>

平成30年度から地域力創造アドバイザーとして野口智子さん（ゆとり研究所、スローライフ・ジャパン）を迎え、地域を盛り上げようと「モノづくり」や「コトおこしに」頑張る人を「雲仙人（くもせんになん）」と呼び、人をつなげ、人を資源に地域を動かす「雲仙人プロジェクト」を現在も推進中。雲仙市内で活躍する人資源を紹介する『あいにかんば雲仙人』という冊子も作った。地域の特産品をひとつの箱にした「雲仙人BOX」も販売している。平成31年1月から普通の市民がスピーカーになり活動を伝えながら語り合う「雲仙人サロン」を実施し、令和3年7月までに22回開催した。持続可能な組織に持っていくためいずれ市民事務局をと考えている。



「雲仙人BOX」発表会の様子



地域おこし協力隊・堀口治香さんが描くイラストが野口さんの目にとまり雲仙人のある店舗を貸切り、展覧会を開催した。今までは雲仙市内でしか出回っていなかった手描きフリーペーパー『雲仙山間号』が、近隣自治体や観光客の目にとまりファンがどんどん広がっている。



<総合計画でも“つながり”を>

平成29年に策定した雲仙市の最上位の総合計画には、将来像を“つながり”で創る賑わいと豊かさを実感できるまち」を掲げた。フォーラムの際も「雲仙市ってすばらしいよね」という気づきをいただき、どんどん素晴らしさを広めている。普遍的なつながりは①自然とのつながり。恵まれた自然環境を財産として活力を生み出す、関係人口の創出、ワーケーション。②人とのつながり。自主防災組織、福祉の支えあいのつながり。③市民や地域、近隣とのつながり。生活産業との連携、郵便局・保険会社との協定を結びながら動いている。

市民との心をつなぐ、まちづくりの合言葉「ほっとするby、雲仙」としている。

<私の“つながり”への思い>



個人的には今年に入って状況をみよう、少し静かにしようと思っている。動き過ぎて見えなかったモノを明らかにしたい。この時間は私にとっては財産の時間、自分を客観的にみて自分を壊さなければいけない、自分の棚卸をしなければいけないと思っている。

職員には“ヒト・モノ（・カネ）・コト・トキ”と周知している。“ヒト”は動いている人・動きたいけど動けない人・新型コロナウイルス感染症で疲弊して生活が苦しい人・情報がありすぎて熱い想いが冷えてきた人など沢山いる。“モノ”は食材・自然・新たな可能性を秘めたモノが沢山あり、これを物語にしたいが素材集めがきちんとで

きていない。それぞれの素材の本質をしっかり把握しなければいけない。“コト”は市民が主体となって動くこと・役所が土台づくりに関わること・役所と一緒に動くこと・役所的な言葉で言うと「自助・共助・公助」であると思う。そして、一番大事なのは“トキ”だ。平成29年中村桂子先生の視察の際に教えていただいた、“今を大切にする”ということ。思いがあっても冷める時もあるだろし動くタイミングもある。今なにををするの？と常に問いかけていないとタイミングを逃してしまうのではないかと思っている。

最後に、“つながり”についての個人的な考え方、コトおこしについて。公務員としての立ち位置、役割はいろいろあって柔軟な議論の場は必要だが、決まったことはone voiceで言わなければいけない。役所の人間がいろいろ違うことを言えば市民は混乱するので、市民の方々ときちんと議論

4. “つながり”個人的な考え②・・・「コトおこし関係」

【公務員としての立ち位置】：役割は色々あっても良いけど、決まったことはOneVoice

- 様々な情報から、正しい道が開ける情報を組み立てることを意識。
- 柔軟な議論の場（様々な立場の声を代弁）を意識。⇒責任ある方向性の決定へ。（変わった時も）
- 根気強く仲間をつくる。（議論の活性化（固定議論の脱却）⇒理念の統一⇒職員の人材育成）
- ※口出し・・・「なるべく控えて支える」か「責任を担う仲間になる！」※評論家にならない。

【プライベートの過ごし方】：客観性とバランス

- ナマの声を多く聞く機会 ⇒ 農業や地域活動への参加 ⇒ 個々で悩みや考えが違う
- いつでも応えられるように常に考える（趣味）
- 勇気をもって踏み出す人を後押しできるようにしておく（時間を意識）

【いまからの“つながり”を考える】：顔が見えるようにしよう！

- 顔の見えない社会・・・顔が見える人の声が届く一方、「ID」という仮の名前で情報が発信。
- 情報化・・・誰もが情報を発信出来るし、情報は原則「消えない」
- 操作・・・操作しても責任の所在が不透明（人を疑いたくない。）
- 組み立てる・・・堂々と表現する、議論する、責任ある仲間で決める。「覚悟」
- ※独りよがりダメ。いつもの仲間での議論から広げる。

○顔が見える・責任が存在した「つながる」ことの大切さ

情報化社会や効率化社会では「事が見える化」

⇒ 人（顔）が見える化を大切に！意識を！



をしたうえで役所としてきちんとした声で発することが大事だ。プライベート

で行動して感じることは、田舎に行けば行くほど課題がある。私たちは家から役所まで自家用車で通うためドアツードア。市民の方々と挨拶をすることがなく言葉を交わすことがない、いかにプライベートのなかで地域の方々と話をする機会をつくるのか、客観性とバランスを養わなければならない。

顔が見える、人の声が届く関係がある、その一方で“ID”という仮名で情報発信ができやすくなっていく。情報が溢れているなかで間違っただ情報もたくさんある。顔が見える、責任が存在したつながりを大切にしたい。情報化社会や効率化社会、働き方改革のなかでは“コトの見える化”といわれるが、コロナ禍で本当に大切にしなければいけないのは“顔が見える”“責任がある”ことだ。それを意識しないと本当に感情のないまちおこしになってしまう。

.....

【質疑】●感想・質問【】内は居住地、○答え、■補足意見。

●雲仙市の子ども達が将来希望をもって地域で暮らせるような実践は？【高知県】

○長崎県は原爆が落とされたことから「平和」がキーワードだ。令和3年から「雲仙市ふるさと平和学習2021」をはじめ、資料をつくり子どもたちに配布、子どもたちのなかで議論をした。

今後は住んでいるところから世界を見せる工夫をしたい。ネットは便利だが使い方を間違えないよ

うに、サポートする人、技術を教える人がいれば子どもには雲仙から世界が見えることになる。そして「帰ってこさせる」ための施策と情報の発信が必要。長崎県五島市は転出者より転入が多い。担当者から「まちの動きがきちんと見えている、そこにやりがいを感じている」と聞いた。きちんとまちが元気に動いていることのアピールが大事だ。

●福岡・熊本・阿蘇・天草・長崎市に囲まれた観光地の激戦区。改めて雲仙の強さと弱さは。【東京都】
○別府・阿蘇・雲仙は昭和の観光地のゴールドラインといわれていた時代があり、何とか雲仙の観光も頑張ろうと思っている。昔に戻ることもできないし、ないものはない、他と比べても仕方ない。地域のファン、地域マニアを沢山作って熱く語れる人が多くなっていけば強くなっていく、その強さがひとつに集約されればさらに強くなっていくと思う。

●小浜温泉発電、いまは？【神奈川県】

○活動はしている。それぞれの旅館に小さな発電機を作ろうという取り組みも進めたが、「湯の華」が管につまり効率が悪いとの話があった。ハイブリット型にして配管を工夫して発電効率を良くしようという取り組みを進めている。

■温泉利用は発電だけでなく温泉蒸し料理のレストランができたり、高熱の温泉を利用して海水を蒸発させて塩を採ったり、そういう利用もされている。

【東京都】



●大規模農業でちゃんと稼げる力がついてきているので、それを子どもたちに見せること、聞かせてあげたりす

ると良い。「雲仙人（くもせんじん）サロン」に子どもたちの参加があると、地域の魅力・こういう活躍の場が自分たちにあると思えるのではないかと。【高知県】

○今は「コトおこし」「モノづくり」のメンバーが主体、いいヒントをいただいた。長谷川八重さん（スローライフ掛川）から「一人何百円の花火を持ち寄って、皆で」という事例を以前聞いた。ご提案いただいた子どもたちがワイワイガヤガヤするようなことに取り組みたい。

■「スローライフ掛川」設立時に、隣の市の大規模な花火大会に対し、イベントをする場所を自分達で作って参加型のスローな花火大会をやった。そのときの話だ。【静岡県】

■「子ども雲仙人サロン」をやりたい。農家や漁師さんの話を聞く、それがどれだけ儲かるのか、どれだけ技術が素晴らしいか、子どもたちに知ってほしい。【東京都】

●今の話をもっと集約して線香花火の会というのも面白いのではないかな。【東京都】

●関係人口のターゲットに、ゼロからではなく2つとも集まりつつあった人を頼って、更にそれを強みとされたのがすごい。観光戦略で6日滞在できる、このイメージは。【佐賀県】

○そこの地を荒らさないことを考えながら、ドライブコース、体験など地域から知恵やアイデアを出しあって、6日間の滞在を楽しむ観光について考えつつある。

●日本には地熱発電の歴史がある。105度の温泉を活用という軸をつくり、地元の人と有識者を交え「地熱発電会議」はどうか。また、役所の人が自家用車で通い市民と挨拶もできないのは大問題。人を意識するのが大事。【東京都】

○いろんな形の尖った政策は、あれもこれもではなく絞りこんで大きなキーワードとして動く方がいいだろう。DOOR to DOOR は田舎ならではの大きな問題。昔、職員に「1日に役所以外の人と何人と話をするのか」と聞いたことがある。ほとんどの人が3人以下、7割の人が家族以外の人と話をしていない。子どもの見守りの交通指導員に挨拶をする、朝

から頭を下げる。そんなことを繰り返すことで人と人のつながりができる。DOOR to DOOR だからダメではなく、そのなかでも出来ることあると思う。



●戦前、雲仙温泉にヨーロッパの人たちが滞在し、交流から素敵な文化が生まれたと聞く。目先のことだけに捉われず、

もっと違う観点から歴史を追って、普賢岳の災害に負けずに雲仙をドラマティックに出した方が良い。クリエイティブな方たちとお話をして言葉をいただき観光産業を広報していただきたい。「雲仙人 BOX」のデザインはかわいいと当事務所女性に好評。【東京都】

○今までの歴史があって今がある。中村桂子先生に「つむぐということの意味知っている？」と聞かれたことがある。その地域々で“モノ”“コト”の、本質的な部分をきちんと結び付けていくことだと思っている。



●雲仙に移住する方が増え、どんどん新しい方が入ってきているということをラジオで聞いた。雲仙はどんどん

全国区になってきていると感じた。今日の話に改めて感銘をうけた。移住されている方々は実際にはどんな感じなのか。【東京都】

○特徴ある方が増えてきた感じ。世界的に有名なあるシェフは、東京でお店をされていたが、岩崎政利さんの野菜に惚れて雲仙市で店を開いた。デザイナーもいろんな方が移住している。若い世代が都市部へ行くのは大学と専門学校が近場にないためだ。それを「行くな」ではなく「一回世界を見ておいで」と送り出し、その後、雲仙は動いていると実感させ

るアプローチをしたい。一定の社会人の経験をした後に、いつでも雲仙に戻ってこられる、と思えるように。



●本当に気持ちのいいお話を聞いた。個人のお話で「ちょっと静かにする」と。それは凄く大事

だと思う。大急ぎでやらなければいけないことがあるのだけど、一方でものすごく長期的な視野も必要。そういうことを考えたのではないか。静かにして松下さんの周りをびっくりさせないように、毎日の活動は止めないで、長期的視野を持つことを大事にしてほしい。固定種・在来種は、大変だと思うが、今の農業の流れを見ていたら必ず大事になる。今までの話の中でいちばん長い目が必要な仕事だと思う。そして、次の世代は子どもが生きるのだから、子どもから聞くということが大切だ。平和について、観光について、子どもたちがどうしたいのかを聞くこと大人にとって大事なことが出てくるのではないかなと思う。【東京都】



○「静かにする」は自分のなかでつくること。ひとつが定年延長、60歳まで頑張るって走り抜こうと思っていた

のが5年間伸びて65歳。その時にプライベートで地域にかかわることと役所に関わることの時間が大きく変わる。今から先を考える長期的視点という自信がなくなっているの、少し静かにしてまわりを見ようと思った。子どもから聞くということ、待つというのがどのくらい出来るのか考える。

●今、全国で地域づくりについてこんなにきちんとした話をできる人はいないと断言できる。今日は本

当に素晴らしかった。ジャガイモ青年松下さんの話はまた何回か続けたい。【東京都】

●松下さんの熱い話を伺うと、強い思いがあればつながることが出来るんだと実感した。今日参加した皆さんは、今日から雲仙のファン、マニアになったはずだ。【東京都】

.....
終了後も延々とおしゃべりが続くなかで、同じ政策企画課の小牟田弘子さんからインフォメーションがありました。「次回の雲仙人サロンは第23回、雲仙市の特産品である「ジャガイモ」につ



いて地元農家さんに話を伺います。皆さんぜひご参加ください」と。そしてオンラインの良さを活かし、後日、

本当にこの雲仙でのサロンに、スローライフ学会会員が数人参加したのです。(記録：事務局 長谷川八重、野口智子)

※この「さんか・さろん」用に松下さんが作られた膨大な資料はホームページから。

<https://www.slowlife-japan.jp/2021/12/07/%ef%bd%93-67/>

「さろん」の様子はYouTubeから見るができます。

https://www.youtube.com/watch?v=63FPTk_ialI

